

## 第14回 市民歴史散歩 「国府・梨打城」6月15日(日)開催

参加者募集

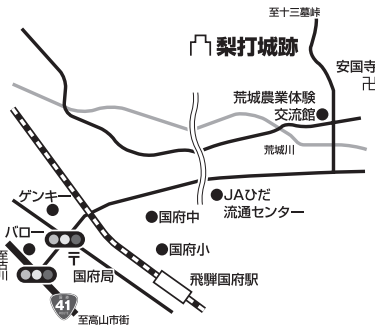
高山市文化協会では、年に一度、地元の歴史に関わる地を訪ねる「市民歴史散歩」を実施しています。

十四回目となる今回は、かつて飛騨において三木氏と権を争っていた、江馬氏終焉の地「梨打城」を訪ねます。

江馬氏の最後の戦いとなった「八日町の戦い」や、最前線として築城された「梨打城」について、市史編さん室の田中彰さんから解説していただきます。

飛騨の歴史を紐解くことにより、歴史遺産の保存・活用の認識を新たにしましょう。

◆日時 六月十五日(日)  
 ◆日時 六月十五日(日) 出発九時～正午解散(昼食後)  
 ◆集合 高山市荒城農業体験



交流館駐車場(国府町八日町)  
 ◆申込方法 五月七日(水)より参加費五〇〇円(昼食代、保険料込)を添えて、高山市民文化会館窓口へ  
 ◆定員 一〇〇名(定員になり次第締め切ります)  
 ※キャンセルされても参加費の返金は出来ませんので、ご了承ください。

## 文化フォーラム2014 芸能と文化展

今年も高山文化フォーラムの季節がやってきました。新年歌会始のお題「静」をテーマに、芸能21団体と展示16団体が、一年の成果を発表いたします。お誘いあわせの上、ぜひ文化会館へお出かけください。

### ◆芸能の部◆

6月21日(土) 小ホール 午後6時開演  
 舞踊・長唄・箏曲など  
 6月22日(日) 大ホール 午後1時開演  
 邦楽・洋楽・バレエ・詩吟など

### ◆展示の部◆

6月21日(土)～22日(日)  
 午前9時半～午後5時(22日は午後4時まで)  
 版画・写真・生花・盆栽・書道・工芸・文芸など

## 「江馬氏について」

高原諏訪城(現神岡町)に居を構え、飛騨の北部を支配していた江馬氏は、南飛騨から勢力を伸ばしていた三木氏と対立していました。江馬氏は武田と結び、三木氏は上杉と結んでいましたが、最後の当主・江馬輝盛は上杉に近づこうとして父・時盛を殺害し、実権を奪いました。

三木氏と共に上杉方となった江馬輝盛でしたが、武田・上杉の勢力減退、そして織田信長の死をきっかけとして野心が目覚め、当時は織田を後ろ盾としていた三木氏に戦いを挑みます。これが「飛騨の

関ヶ原」とも言われる八日町の戦いです。

この戦いの際に、最前線として戦いの舞台となったのが、今回訪れる「梨打城」でした。ここで輝盛は三木氏の銃弾に倒れ、勢いに乗った小島時光が高原城へ攻め込み、江馬氏は滅ぶこととなります。

## 文化協会后援 催事のお知らせ

(一社)高山市文化協会加盟団体  
 第十回 一滴会書展  
 ◆日時 五月十六日(金) 十八日(日) 午前九時～午後六時(最終日午後四時まで)  
 ◆会場 文化会館三階講堂

## 文化協会 加盟団体紹介 「真多呂人形紫の会」

代表 岩田真紫藻

私は、両親の看護のため、三十歳半ばにて高山へ参りました。それまでに、東京にて初代真多呂(家丞)に師事し、二代目真多呂と共に全ての基本を習得しました。

高山に向かうことを申し上げた時、先代は「高山は日本一伝統工芸の優れているところ、心して行きなさい」とはなむけの言葉をくださいました。病気の母をかかえておりまして、高山だけでなく下呂、萩原にも教室を開き、一時は六十名以上の生徒さんに夢中で指導に当たりました。以来本校で資格取得した方は、五百名以上になりました。教室では、先ずボディー作り毛吹・面想などを教え、また十二単の着付けなどもいた



しました。また、児童福祉施設などに飾りのひな人形を贈ること年続けて三十五年続けていました。しかし、会員も年齢が高くなり、昨年から園生や園の人にお願ひしています。今は発表会の折などに、美しいまりなどを作り、購入いただいたお金を東日本災害復興の一助となるよう、新聞社などを通して贈る活動を考えています。 〇三三三・四五三五

## 「風目(目)」

あの人の目は風目一目ではなく、本当に八目くらいまで読めたのではないだろうかと思う。フランスの小説家で文化大臣までやったアンドレ・マルロー氏のことだ。

なまじの日本の文化人よりよっぽど日本文化についての造詣が深い。この人が居なかったら、「ミロのヴェイナス」や「モナリザ」は日本に来ることはなかった。

そのお返しに、アンドレ・マルロー氏が求めたものが何だったか?(アナタなら日本を代表する世界的な芸術作品として、パリに胸張って送り出せるものとして何を選ぶだろうか?)

それはなんと唐招提寺の「鑑真和上像」だったのである。日本と中国の文化の懸け橋として、命をかけた何回も失敗し、失明してまでも日本へやって来た人の像であった。「天の川ふりさけみれば」の阿倍仲麻呂の逆の人である。

若葉して 御めの雫

ぬぐはばや

芭蕉

五月、青葉若葉の美しい季節となった。  
 (ガンモン毛筆)